

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和3年12月24日

公表:令和4年2月1日

事業所名 ポカラポット梅森坂

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		・活動内容に合わせて活動場所を分けるなど工夫をしている	・利用者の特性をしっかりと把握した上で、活動内容と活動場所を決め、利用者同士が適切に距離を保ちながら活動できるようにしていく
	2 職員の配置数は適切である	6		・小グループに活動を分けることで、個別の支援にも十分に対応できるよう工夫をしている ・個別活動、集団活動どちらの活動にも対応できる職員配置をしている	・適切な職員配置人数を保ってはいるが、今後も活動内容の見直し、基準を満たす最低限の人員配置でも質の高いサービスを提供できるように一層努力していく
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3	・ハード面で改善が難しい部分は、利用者や職員でお互いに声を掛け合い注意をしている ・スロープや段差など注意すべき箇所には滑りにくい工夫をしたり、口頭での注意喚起を行うなどの対応を行っている	・定期的に事業所内外の点検を行い、注意すべき箇所を職員間で情報共有し、注意を促すような掲示物を貼るなどの視覚的にも注意を促せるような対策を工夫して行っていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		・業務内容の確認や見直しを行い、役割分担をして進捗状況の報告をするなど、情報共有ができるように努めている	・事業所の状況等を細かく報告し、各職員が改善していくための考えをもてるよう意識改革の取り組みを続けていく ・法人内の職員からも助言をもらうなどし、広く参画できる仕組みを整えていきたい
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		・これまでいただいたご意見を職員間で共有し、改善方法などを話し合っている	・改善すべき点についての話し合いはできているが、実行したこと、保留になっているものなどの洗い出しができていない。進捗状況の報告もできていないため、事業所の取り組みを利用者や保護者に発信できる仕組みを考えていきたい
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		・HPIにて公開し、利用者や保護者に周知している	・周知徹底できるよう努める
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5	・外部評価を受けるまでの体制づくりに着手できていないが、保護者等向け評価表や自己評価の結果を受け、改善努力に努めている	・第三者による外部評価を受けるための基盤整備に努めていきたい ・第三者評価調査者である職員によって、第三者評価の視点から定期的にフィードバックしてもらい体制を整えていく
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・事業所の特色に合った研修にできるだけ参加できるように努めている ・法人内で合同MTを開くなど、職員の学ぶ機会を設けている ・各職員が自発的に研修に参加している	・外部研修に積極的に参加ができる体制を整える ・初任者～管理職までの、研修プログラムを作成し着手していきたい	

適切な	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にあセスメントを行い、日々の活動記録や本人、ご家族の意向を反映する放課後等デイサービス計画を作成している ・サービス等利用計画とも照らし合わせて作成している ・送迎時や連絡帳などでも適宜相談し課題の把握に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートの更新を定期的に行うようにし、ニーズや課題の変化について丁寧に把握するように努力していく ・相談支援など関係機関との連携を図りながら、丁寧なアセスメント、計画作成に努めている
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの未来をひらく182の社会スキル」(CSP)を参考にし把握に努めている ・S-M社会生活能力検査を活用できるように勉強している 	<ul style="list-style-type: none"> ・S-M社会生活能力検査を希望される方に実施できるように整備していく ・Vineland-II、LDI-R、S-M社会生活能力検査を上手く組み合わせ有効に活用できる仕組みを整えていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズや課題に対して、職員の専門性が生かされる活動になるよう工夫をしている ・各職員が活動案を持ちより、会議等で話し合い決定していく仕組みを整えている ・職員が意見を言い合える良好な環境づくりに努めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・より専門性のある活動や新しい取り組みなどを取り入れていけるよう、研修などの学ぶ機会を設けていきたい ・事業所内に限らず、同法人内の職員や他事業所などにも意見をもらい、多角的に立案できる仕組みを整えていきたい
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・変化するニーズに合わせて、様々な情報を収集し、利用者の特性を考慮しながら、柔軟に活動内容を考えていくように工夫をしている ・利用者の希望によって固定のプログラムを組んでいるが、利用者のニーズや状況の変化に応じて、プログラムの見直しや変更など発展させていくよう工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からより細かくニーズを引き出せるよう、保護者との連携を強化して活動に反映できるよう整えていく ・幅広く職員から意見をもらい、活動の幅を広げ多角的な支援が行えるよう工夫をしていく ・目的や意義などが活動に反映され、職員間で確実に共有できるようにしていく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動時間、利用者の特性、季節、天候等を踏まえて、日ごとの目的や課題、さらには利用者個々の課題を設定して支援している ・平日の支援、休日や長期休暇の支援でそれぞれに課題を設定しているが、それぞれを組み合わせる継続的な支援もできるように工夫している ・長期休暇でしかできない活動などを取り入れることで課題や目的を設定している 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画で個々の課題の目標を設定しているが、個々の課題が集団活動の中でも支援できるように工夫をしていく ・「きめ細やかに」設定するために、個々の課題を常に整理、把握をして、職員間で共有をしていく

支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者によって個別活動や集団活動での課題を明確にし支援計画を作成している。 ・利用者の課題に応じ、支援計画に沿った集団活動ができるように工夫をしている。 ・利用者の意欲や特性などを考慮して、適宜組み合わせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団、個別それぞれの課題が、常に意識され効果的な支援が行えるよう、職員間で情報共有をし適切な支援が行えるように努めていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・事前の打ち合わせで、職員と利用者の明確なグループ分け、活動の詳細な打ち合わせとシミュレーションを行い、それぞれの活動を理解した上で職員が連携して支援を行えるよう工夫している ・利用者それぞれの課題と役割についても共有できるように工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる状況を想定し、状況に応じた対応(活動内容の変更など)も打ち合わせで確認できるようにしていく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が日々の記録の確認を行い、翌日に振り返りなどを行っている ・重要事項や緊急を要する事柄については、個人情報取り扱いに十分配慮して、電話などで確認を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で記録などを参考にして振り返りを行い(必要であれば各自振り返りシートを作成し記入する)、翌日に職員間で情報共有できるように工夫していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画に沿った支援が行われているかを振り返り、支援の効果と照らし合わせて記録するようにしている。 ・各職員が記録をチェックし、適宜追加を行うようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の課題、集団の課題など、広い視野をもって記録を残すように指導していく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・記録や日々の活動の振り返りを通してモニタリングを行い、支援計画の見直しをしている ・個別のスケジュールシート等の更新を行い、支援計画の見直しに反映できるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの参考になるよう、個別のワークシートの自己評価の課題や感想部分についての定期的な変更を適宜行えるようにしていく
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・「社会性」「コミュニケーション」「社会スキルの習得」に焦点を当てた支援を柱としながら、個々のニーズや課題に応じて組み合わせ、支援を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も個々のニーズや課題に即した基本活動を選択し組み合わせながら、支援の幅を広げて、ニーズや課題の達成に努めていく

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議の依頼があれば適任者が参加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議の必要性が生じたときには開催の呼びかけを積極的にするようにしていく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に利用者の様子を確認するなどして適切な支援が行えるよう情報共有を行っている ・送迎の調整を学校へ依頼する際は、電話連絡をするなど適切に行っている。また、利用者と保護者にも連絡をすることでより密に連絡調整ができるように工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の送迎時のやりとりや、ケースの打ち合わせなどに出席するなど、今後とも連携に力を入れていきたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素吸入を必要としている利用者に対しては、保護者を通して主治医の指示を確認している。また、予測されるケースを把握し、家庭と密に連携をとっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当ケースはないが、看護師を配置しているためそのようなケースが発生した場合には連携していく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	5		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が小学校高学年、中高生であるため機会がない。成育歴等は必ずチェックしている ・必要なケースが発生した場合は、情報を共有するなどの体制を整えていく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	4		<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では必要とされるケースがなく、実績もない ・今後は移行していくケースも増えていくと予想される。将来(就労や自立的な生活など)にどうつなげていくかを考えた支援、また特性など利用者の情報を丁寧にアセスメントし次のステージに提供できるよう整備していく必要がある
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4		<ul style="list-style-type: none"> ・法人内に日本LD学会に所属している職員がおり、研修に参加するなどして最新の知見を得られるよう努めている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公園での活動、近隣の清掃活動、避難訓練などの活動を通して地域や社会の人との関わりを持てる機会を多く設けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・「障がいのない子ども」と活動する機会を積極的に設定はしていないが、近隣の清掃活動など社会参加活動を多く設けることで一定の関わりをもつ活動を維持する努力を続けていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・参加できるよう職員体制を整えるようにしている ・協議会等で得た情報については職員間で共有するようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後でもできる限り参加し、知り得た情報を職員間で共有して支援につなげていくよう努力する
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の送迎時に活動を報告すると同時に、利用者の課題や今後の支援についても共有するように努めている ・成長段階で出てくる課題に対して、様々なツールを活用して保護者と情報を共有し、支援の方向性についても話し合っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も送迎時や面談、電話などあらゆる手段を活用し、利用者の発達や課題の共有や支援の方向性について保護者と活発な意見交換ができるよう信頼関係を築いていく 	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	3		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から積極的な取り組みは行われていない。今後はどのような形でできるかを考え取り組めるよう努める ・プログラムとしては実施していない。CSPのトレーナー資格は持っている職員がいるため、CSPの考え方などに基づいた助言は引き続き行っていきたい
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に丁寧に説明を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・変更があった際は、資料を提示して何がどのように変更になったかをより丁寧に説明をしていく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・必要な場合に限り、了承を得た上で関係機関と情報共有をして、適宜必要な支援を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談があれば、保護者の了承のもと、職員や関係機関等と情報共有し、必要な支援を適宜行い、経過も共有している ・思春期の利用者も多い事業所であることから、職員から保護者に働きかけ悩みなどを聞いていく必要性も感じている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から保護者同士が交流できる場を提供することは難しかった。来年度以降については、感染予防をしながらどのような形で提供できるかを考え提供できるように努めていく ・父母の会が存在しないので、直接的な支援は出来ないが、保護者が参加できる企画を開催するなど、保護者同士が交流できる場を設けていきたい ・子どもたちの活動の様子を見学してもらう場などを通して保護者同士が交流できるような機会の提供が出来るように工夫する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・苦情があった場合の対応方法については、苦情の内容と状況の把握、対策を考えて報告書を作成し苦情に対応できるよう職員間で情報共有をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時の重要事項説明書等の説明の際に苦情対応についての説明をしているが、変更があった場合や年度替わりには改めて説明するように努めていく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・システム(HUG)上に活動報告を載せて閲覧できるようにしている ・行事予定については必要時に案内を作成して配布している 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告は毎日システム(HUG)に載せていることを周知していく ・Instagramの更新を定期的に行えるよう努めていく ・活動の様子を撮った写真を定期的に渡すなど、より具体的な方法で発信できるようにしていく ・引き続き、行事予定表を作成し配布していく
	35	個人情報に十分注意している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いに関することについては必ず書面を用いて説明し同意を得ている ・個人情報を取り扱う際は、その都度書面の確認を行い十分に注意して扱っている ・特に写真データの取り扱いについては、年に1度書面の提出をお願いしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報を扱う際は、書面の確認を行い、十分に配慮して扱うことを続けていく

36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対しては、それぞれの特性に合わせた伝達方法を職員間や保護者と共に情報共有し確認している ・送迎時、面談、電話など情報共有の方法については、その実情に合わせて様々な方法を組み合わせて行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達をこまめに行うことで、利用者や保護者に安心感をもってもらえるように努力していく
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でイベントを開催することはできなかったが、見学の希望があった際は、感染対策を行った上で受け入れをしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に関しても新型コロナウイルス感染予防の観点から行事を開催することが出来なかった。来年度以降については、感染予防をしながらどのような形で開催できるかを考え、より地域の方々が参加できる行事を開催できるように努めていく ・定期的にイベントを行うことで、地域の方々にも足を運んでもらえるように取り組みを考えていきたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6		<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアル(連絡体制を含む)を作成しHPにて公開している HPにて公開する際には、利用者や保護者に周知しつつも見られるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアルを定期的に見直し、必要に応じて変更、修正、追加をし、常に新しいマニュアルを周知できるように努めていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> 月1回の訓練実施が義務付けられているため、避難訓練や避難場所や避難経路の確認、防災や非常食などに関する勉強、防災センターの見学や体験などで子どもと共に学ぶ活動を取り入れている 	<ul style="list-style-type: none"> 非常災害だけではなく、不審者対応や防犯など情勢に応じた勉強会や訓練を行えるようにしていく 救護や防災などに関する研修に参加し、新しい知識や技能の習得を目指していきたい BCPの作成に着手する
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		<ul style="list-style-type: none"> 職員は定期的にセルフチェックを行い常に意識して支援にあたるように努めている セルフチェックをもとに職員間で確認をし、客観的な視点でも確認できるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 社内研修を行う以外にも、外部の研修に参加できるよう体制を整える 虐待防止委員会の設置に着手する
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			<ul style="list-style-type: none"> これまでにケースはなかったが、今後このようなやむを得ないケースが生じた場合は、決まりに基づいた行動をとる
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントで聞き取りを行い、アレルギーのあるものを使用しない、代替品を用意するなどの対応をしている 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントでの聞き取りのほか、定期的に確認を行い、変更があった場合はアセスメントシートの変更も行っていく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		<ul style="list-style-type: none"> 事例集には、事例が起きたときの状況と今後の対応について記載するようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有だけでなくとどまらず、事例検討を適宜行うように努めていく